特集 イクメンへの道は険し、されど楽し。

連載 かがやく個性たち
「保育園おはなし会」

男女共同参画社会をめざして

かがやく

我孫子市

Vol.20

イクメンへの道は険し、されど楽し。

昨年は「イクメン」がすっかり流行語になったり、育児休業法が改正されたこともあって男性の育児が注目をあびた年でした。しかし法律や流行で日本の育児環境が劇的に変わるわけではなく、社会全体の意識がまだまだ追いついていないのが現状でしょうか。

とはいえ、育児そのものの楽しさ、ひるがえってそれが自身を充実させ高めてくれることに気づきはじめた男性も、じわじわとこの国に増えてきたように思われます。ここ我孫子でも、そんなイクメン道を歩む三人にお話を伺いました。（文中仮名・敬称略）

手さぐりで新しい経験を楽しむ

吉野　太郎（33歳） 長男2ヵ月半

吉野太郎と彩、二人は結婚式の段取りを決める前から子どもは早くつくろうと決めていた。吉野は出産に立ち会うのは当然で「むしろ楽しみにしていた」と言う。すでに予定日より遅れており、吉野がそのために会社を休んだ2010年10月29日には産まれず、翌30日の午後、長男尚汰誕生。「誕生の瞬間は感動した。予想はしていたけど、それをはるかに超える感動で、やっとこの世に出てきてくれた、そこに立ち会えた」

吉野の勤める会社に男性の育児休暇の制度はないという。「育児休業法改正とかはこのインタビューの話があって、初めて知った。男性が育休を取らないのはごく普通のことだと思っていた」

現在、尚汰は生後2ヵ月半、「表情も出てきて、見ていて飽きない。沐浴、おしめの交換、授乳後のげっぷ出しは自分の担当と決め、やっている」「育児を妻に任せきりにするのはいや、自分も育児に参加している感覚がほしかった。自分ができることはできるだけやってあげよう、そう思っている。特に沐浴は腰に負担がかかるので、それは自分がやると決めた。自分は未経験でも新しいことは楽しむタイプなので、手さぐりでやっている」

「現在は育児の楽しみを経験したので、むしろ育休を取りたい気持ちもある。一方、自分は男はこうあるべきがしみこんでいるので、稼いでいる側にいたい」とも。さらに吉野は、これからも仕事一辺倒でなく子どもにもっと関わりたいと言い、それは「子どもと共有できる思い出は多ければ多いほどいい」からであり、「自分と父親の思い出も残っているから」であると言う。（T・O）

吉野さん父子

子どもの世界が広がっていくスピードにおどろく！

坂本 遼（36歳） 長男8歳

子育てのよろこび

わが子の生まれる瞬間に立ち会いたいと予定していたが、出産が予定日より早くなり、お産が短時間だったため間に合わなかった。残念！　ただ笑っている姿を見ているだけで素直にうれしいと思う。息子は今8歳になったが、自分の子どもの頃を懐かしく思い返しながら楽しませてもらっている。知識や経験を吸収して、子どもの世界が広がっていくスピードの速さに驚いている。

お父さんって？

何しろ平日はもちろん、時に休日も仕事で息子とゆっくり会話もできないのが現状。存在していることで父親の役割になっていると思うことにしている。母親がやっていることを代わりに行うのが子育て参加ではなく、社会で仕事をして子どもの知らない所で働いている存在が、息子にとっての父親像になっていると思う。母親（妻）の話し相手、ぐちの聞き役、共感してあげることで一緒に子育て参加をしているつもりだ。

〈妻の声〉多忙な中で自分のできることをよくやっているし、父親にしかできない役割を果たしていると思う。

仕事と育児のバランス？

育児のために仕事を犠牲にしたことはない。仕事を犠牲にした（かもしれない）妻に対しても彼女の分まで仕事は全力で行う（経済的にも）。でも、オフの時はできるだけ家族と一緒に過ごせる時間を作るようにしている。息子が中学生になったら、一緒に遊べる時間も少なくなるだろうから…。

親として

子どもたちのために、もっと将来に夢がある社会にしたい。年長者を敬う心と思いやりの言動を身につけてほしい。子育てで大切なのは夫婦間での互いの尊敬と思う。親が互いに尊敬しあっていないと、子どもも同じように尊敬できないと思う。子育ての苦労も夫婦で尊敬しあっていれば、解決策が見つかると思っている。（Y・H）

五十嵐さん父子

ママはどこ？

五十嵐　哲也（42歳） 長男8歳　長女6歳

穏やかなそうなパパだ。話している間も子どもたちが抱きつき、嬉しそうに微笑んでいる姿が印象的だ。

父親であることを楽しんでいるか？と聞いてみた。「もちろん、楽しんでいます。でも、ただ親として、自分が普通にやれる事をしているだけ」と謙虚である。

〝イクメン〟ねえ…と言いながら、「やはり出産に立ち会ったことは大きな変化となったかな。といっても、妻の手を握ったり、声を掛けるだけしかできなかったけれど、出産の大変さを直に感じ、新しい命の誕生に立ち会えたのは感動でした。親としての自覚が芽生えた瞬間だったかもしれない」

〈妻〉「子どもが小さいうちは、男の人にできることも限られるけれど、夜中、子どもが目を覚ますと、私より先に起きてあやしていたり…と私が完璧ではない分、父性が培われたかも」

「長男が5歳、娘が3歳の頃、2年半大阪に単身赴任していました。子どもたちはかわいい盛り。気持ちは毎週帰ってきたかったけれど、月2回しか帰ってこられず、子どもたちとの限られた時間を大切にしたいと思いました。往復の日々は大変でしたが、貴重な経験となりましたね」

お子さんとの関係は？「子どもの成長は予想外に早くて、最近では長男が世の中の情報を吸収し、得意げに教えてくれ、いい話し相手になっています。毎日でも遊びたいと思っている子どもたちと、休日にはたくさん遊びたいし、私も楽しみにしています。子どもたちの好奇心を大切にしつつ、時には羅針盤になれたらと思います。同じ目線で接して行ければ…なんて、理想かもしれませんが（笑）」

一週間の時間配分は？「仕事6・家族3・自分1」自分の時間が少なくないか？「家族の3も自分の時間のようなものだから」

〈妻〉「とにかく、子どもたちはパパが大好き！もちろん、家族みんなで過ごす時間も大切にしていますが、子どもたちと彼の3人で出かけることもしばしば。出先で『あれ？ママは？』なんてことも（笑）週末は子育て放棄？で、彼に甘えています」

やはり〝イクメン〟だと思うが…「いや、娘の幼稚園に行ったら、自分なんかまだまだ！」と照れくさそうに言っていた。（K・T）

連載 かがやく個性たち⑯

「保育園おはなし会」

我孫子市には、図書館をはじめ学校、集会所、自宅などそれぞれの所で子どもたちにお話をしたり、絵本を読む活動をしている人たちがいます。その中で、市内の公立保育園を中心にお話の出前をしている皆さんに活動の様子をお聞きしました。

きっかけは、20年くらい前、私たちが図書館主催のストーリーテリングの連続講座を受講したこと。受講後、発表の場を持とうと勉強会を開くようになったことが、その後のおはなし会の活動に結びついた。子ども文庫、絵本の読み聞かせ、素語りの会などいろいろな活動をしていたメンバーが、同じ思いで集まった。「保育園おはなし会」という名称になったのは2001年。月1回の準備会で絵本を選び、訪問先を決める。14名のメンバーが1グループ3名ほどで市内8カ所の保育園におはなしを届けている。毎年12月は、特別プログラムとして影絵やブラックシアター（※注）といった大掛かりなものに取り組む。まるで「旅の一座」のようだ。

（※注）ブラックシアター：部屋を暗くして、蛍光塗料を塗った人形を遣っておはなしをする。

おはなし会のプログラム
（午前9時50分～10時30分）

＊挨拶・自己紹介
＊誕生月の子に折り紙で作ったハートのメダルをプレゼント
＊手遊び・素語り・絵本・紙芝居・わらべうた・パネルシアターなど

子どもたちのお気に入りの本・おはなし

＊おはなしそのものに力があるもの
「ももたろう」「赤ずきんちゃん」など
＊子どもの生活に密着した絵本
＊最近読んであげた絵本では
「びょーん！」「だるまさんが」
「くまのコールテンくん」

喜びは、子どもたちが楽しみに待っていてくれること。子どもたちの笑顔が何より嬉しい。おはなし会は、まさにライブで、相手の目や表情を見ながら同じ時間を楽しむこと、子どもたちと一体になる瞬間はとても充実感を感じる。こちらの方がたくさんのエネルギーを貰っている。道を歩いていると、「アッちゃーん」と声をかけてくれて、まるでお友達みたい（笑）。今後もこれまでの流れを変えることはない。絵本やおはなしを通して、子どもたちに生きる力や読書の楽しみ、想像力を養ってほしいと思っている。私たちの活動は続けていくことが大切で、無理せず楽しく、ゆったりとした時間を子どもたちと過ごしていきたい。

図書館主催のおはなし会もあります

図書館では、子どもたちに読書の楽しみを伝えるために、おはなし会なども開催しています。読書が子どもの心の成長に欠かせないものと考えているからです。読み聞かせをしている学校現場では、「子どもの集中力が高まった」、「落ち着いて授業を受けるようになった」などの声も聞かれ、学校図書館の貸し出しも伸びているようです。

（図書館主催のおはなし会）　問い合わせ 7184-1110

●パーパタイム（アビスタ本館・布佐分館）…4歳から9歳向け（絵本と素話）
●ミッフィータイム（アビスタ本館）…乳幼児とその保護者向け（絵本と手あそび）
●そよかぜおはなしタイム（移動図書館）…青山台・久寺家ステーションで開催
（そよかぜ号 問い合わせ　7187-0909）

編集後記

ささやかなイクメン（育児男子）特集である。自分のそのころを振り返れば忸怩（じくじ）たるものがあるが、環境はあまり変わっていないのでは？制度もさりながら、同時に広範な社会的共感、同意が必要にも感じた。イクメンを応援して、まずイクメンを育てよう。（イクジイ）

国の第3次男女共同参画基本計画ができました。

国の男女共同参画施策の基本となるもので、策定には公聴会や意見募集、提案募集等により多くのみなさんが参加し、実効性のあるアクション・プランとなりました。【内閣府ホームページ　http://www.gender.go.jp/kihon-keikaku/3rd/index.html】

■発行：我孫子市　■発行日：平成23年2月28日 Vol.20　■編集：「かがやく」編集委員会
我孫子市市民生活部 市民活動支援課 男女共同参画室　〒270-1192 我孫子市我孫子1858番地　TEL 04-7185-1111
地球環境保護のため再生紙を使用しています